

◎全国で4万2000人超が挑戦＝第7回検定を実施

正しい日本語を身に付けてもらうことを狙いとする「日本語検定」（略称・語検）の平成22年度第1回（通算第7回）検定が、6月18、19の両日、全国112都市の一般会場と、913の準会場とで行われました。

「語検」は、敬語や文法、語彙（ごい）、表記など6領域について、正しく使う能力を測るものです。1級から7級まで、小学生から社会人まで幅広い年齢層を対象としています。

今回の受検者数は、全体で4万2176人でした。1級（社会人レベル）504人、2級（大学生～社会人レベル）5094人、3級（高校生～社会人レベル）1万4416人、4級（中学生・高校生レベル）1万2128人、5級（小学校高学年・中学生レベル）4467人、6級（小学校中・高学年レベル）3927人、7級（小学校低・中学年レベル）1640人。最年長者は87歳、最年少者は5歳でした。

◇「就職を有利にしたい」＝中央大学で団体受検



東京・八王子市の広大な中央大学多摩キャンパスでは、18日夕、2級と3級を団体受検しました。同大での団体受検は2回目。世話人でインターンシップ講座を担当している経済学部客員講師の平松裕子さんは「今の学生は英語については企業側の要請もあり熱心に勉強していますが、では日本語はどうか。コミュニケーション能力が不足していると思います。日本語検定は、大学生にな

って自分の日本語の力をチェックするいい機会になります」と、説明しました。

3級を受検した経済学部2年の男子学生は「日ごろ、日本語をあまり意識したことがなかったが、まずまずのでき」と自己評価。今後については「不況で就職が厳しいこともあり、周りの友人は資格の取得に熱心で、それに追われている状況。自分も就職に少しでも有利なように、これからいろいろな資格を取っていきたい」と話していました。

また、2級と3級に挑戦した経済学部3年の女子学生は、受検のために3冊のテキストを購入。「普段あまり使っていない言葉なども出題されているので、勉強になりました」とうなずいていました。

学部共通のインターンシップ講座を受講している総合政策学部2年の女子学生は「選択問題なので、難しくはなかった」と余裕の表情でした。

検定結果は、7月上旬頃にホームページで合否速報が行われ、その後合否通知が発送されます。